

投与プロトコール 1クール 14日間 制限なし 《開始時基準 PS:0~2 年齢:制限なし》		投与量	投与日	投与時間	備考
ルートKeep	生理食塩液	250mL	Day1	初回3時間、以降2.5時間	
前投薬	生理食塩液	100mL	Day1	30分点滴	
	デキサート注 6.6mg/2mL ポララミン注 5mg	1V 1A			
前フラッシュ	生理食塩液	50mL	Day1	全開点滴	
①	ベクティビックス 6mg/kg	mg	Day1	初回60分 以降30分	
	生理食塩液	100mL			
後フラッシュ	生理食塩液	50mL	Day1	ベクティビックスと同じ速度で	経過観察中にフラッシュ
経過観察 (1時間)	ベクティビックス 後フラッシュ後、ルートkeep用生理食塩液にて経過観察。 ベクティビックス終了後、infusion reactionの発現に注意して1時間経過観察する。				

<使用上の注意点>

☆緑内障、前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者は、ポララミン注は禁忌。

(オロパタジン錠等へ変更)

【ベクティビックス】

- ◆infusion reactionとして、アナフィラキシー様症状、血管浮腫、気管支痙攣、発熱、悪寒、呼吸困難、低血圧等があらわれることがあるので注意する。緊急時の対応できるよう準備しておく。重度(Grade3以上)のinfusion reactionが現れた場合、本剤の投与を中止し、以降、本剤を再投与しないこと。また、Grade2以下のinfusion reactionが現れた場合は、投与速度を減じて慎重に投与すること。(米国の添付文書には「投与速度を50%減速する」と記載されている)
- ◆投与前後は、生理食塩液50mLを用いて点滴ラインを洗浄し他剤との配合は避ける。フラッシュ生食はベクティビックス投与前は全開、ベクティビックスの投与後はベクティビックスと同じ投与速度で点滴。ベクティビックス投与中及び投与終了後少なくとも1時間は観察期間(バイタルサインをモニターするなど)を設けること。
- ◆間質性肺炎、肺線維症など重篤な副作用が起こることがあるため注意する。
- ◆ざ瘡様皮膚炎、紅斑、発疹、そう痒、爪囲炎、皮膚剥脱、皮膚亀裂および皮膚乾燥があらわれることがあるので注意する。保湿剤やステロイド剤等の使用や手足の保護などセルフケアで対処する。
- ◆保存剤を含有していないため、希釈後は6時間以内に使用すること。すぐに投与開始しない場合は冷蔵保存(2~8℃)し、24時間以内に投与開始することが望ましい。
- ◆インラインフィルター(0.2又は0.22ミクロン)を用いて投与すること。

<減量基準>

◆ベクティビックス 重度(Grade3以上)の皮膚障害発現時における投与量調節の目安

皮膚障害発現時の本剤の投与量	投与	投与延期後の状態	用量調節
6mg/kg	投与延期	6週間以内にGrade2以下に回復	6mg/kg又は4.8mg/kg
4.8mg/kg	投与延期	6週間以内にGrade2以下に回復	3.6mg/kg
3.6mg/kg	投与中止		

